

国内

2

アジア映画シリーズ®

中国映画展1999

中華人民共和国建国50周年 / 日中文化交流協定締結20周年記念

12 / 2 ~ 8



リトル・チュン (中国・香港)



柳と風 (イラン)



遥かな想いチャイニーズ・ドリーム in U.S.A.

12 / 11 ~ 19

第3回 アジア・フィルム フェスティバル



ペパーミント・キャンディー (韓国)

国内

6

アジア理解講座

水曜日「タイを知ろう」

木曜日「南アジアの20世紀：巨象動く」

国内

6

ペルシャ伝統音楽日本公演

ペルシャ、こころの響

国内

7

日本・モンゴル文化フォーラム

文化財の保護と活用を考える

その他の予定

国際会議	9
人物の交流派遣	9
人物の交流 招へい	9
日本語・日本研究	10
芸術交流 展示	10
芸術交流 公演	11
映像交流	11
事業報告	12

詳細については各ページをご参照の上、担当部署へお問い合わせください。

送付先の変更については総務部総務課へご連絡ください (TEL.03-5562-3511, FAX.03-5562-3494)。

「国際交流基金 NEWS」は当基金のホームページ (<http://www.jpf.go.jp/>) でもご覧になれます。

アジア映画シリーズ ⑧

中華人民共和国建国50周年 / 日中文化交流協定締結20周年記念

中国映画展 1999

12月2日(木)~8日(水) / 国際交流フォーラム(裏表紙参照)

1999年は、中華人民共和国建国50周年であるとともに、日中文化交流協定締結20周年にあたります。中国では「1999日中文化友好年」が開催され、両国においてそれぞれの記念イベントが行われています。このメモリアル・イヤーを記念して、日本未公開

作品を中心に、中国映画の秀作11本を集めた「中国映画展1999」を開催します。オール・アメリカ・ロケの話題作『遙かな想い チャイニーズ・ドリーム in U.S.A.』、注目の児童映画『草の家』、農村爆笑コメディ『婦人会の男主任』、名匠・呉天明監督の演出が冴える『セピア色の愛』といった新作群。一般公開が決定している『榕樹の丘へ』の特別上映に加え、『白毛女』『三人の李さん』といった歴史的名作も上映します。建国後の半世紀を回顧するとともに、改革開放の進む中国の“いま”を知る絶好の機会となるでしょう。

また、上映作品関係者を含むゲストをお招きし、シンポジウム「中国映画50年」を実施する予定です。

中国映画の過去、現在、未来を俯瞰する「中国映画展1999」に、どうぞご期待ください。



『白毛女』



『草の家』



『婦人会の男主任』



『金婚式』

前売り 1回券 ¥800、3回券 ¥2,100
 会期中 1回券 ¥1,000、3回券 ¥2,400
 前売り券は、チケットぴあ(03-5237-9999)にて
 12月1日(水)まで発売中

お問い合わせ先：「中国映画展1999」事務局(ぴあ(株)映画事業部内 03-3265-1425、月~金10:00~18:00 土・日・祝休み)
 会期中は国際交流基金アジアセンター(03-5562-3892)にお問い合わせ下さい。

- 日本側主催：国際交流基金
- 協賛：(株)徳間書店東光徳間事業本部、ソニー(株)、日本航空、(財)東京国際映像文化振興会
- 企画協力：ぴあ(株)
- 後援：外務省
- 中国側主催：中華人民共和国国家広播電影電視総局電影事業管理局
- 特別協賛：中国電影合作公司
- 協賛：北京映画撮影所、長春映画撮影所
- 後援：中華人民共和国駐日本国大使館

上映作品

【中国映画の現在】	
1. 『遙かな想い チャイニーズ・ドリーム in U.S.A.』 不見不散 / 1998 / カラー / 99分 監督: 馮小刚 (フォン・シアオカン) 出演: 葛優 (コー・ユー) 徐帆 (シュイ・フォン)	“アメリカン・ドリーム”を夢見て移民した中国人の男女。すれ違いを重ねる風来坊たちの姿をコミカルに描いた、オール・アメリカ・ロケの新感覚中国映画。『再見のあとで』(92)の人気コンビ、葛優と徐帆が再び共演している。
2. 『草の家』草房子 / 1998 / カラー / 102分 監督: 徐耿 (シュイ・ゴン) 出演: 曹丹 (ソウ・タン) 杜源 (トゥ・ユワン)	中国で現在人気沸騰中の児童文学『草房子』の映画化作品。原作者の曹文軒 (ツァオ・ウエンシュワン) が自ら脚本も担当している。文革直前の地方の小学校を舞台に、貧しくも明るく生きる少年少女の世界がユーモアたっぷりに活写されている。
3. 『婦人会の男主任』男男女主任 / 1998 / カラー / 88分 監督: 張恵中 (チャン・ホイチョン) 出演: 趙本山 (チャオ・ベンシャン) 宋丹丹 (ソン・タンタン) 梁天 (リアン・ティエン)	ふとしたはずみで婦人会の主任になってしまった村一番のお調子者、劉一本。折しも県のお役人が村の視察に来るといのでさあ大変! 村の“大改革”が始まった。美しい風景の中、農村の現状を笑いに包んで描いた爆笑コメディ。'99年百花賞最優秀作品賞受賞作。
4. 『生命のピアノ』生命如歌 / 1997 / カラー / 103分 監督: 夏剛 (シア・カン) 出演: 王洛勇 (ワン・ルヨヨン) 厳曉頻 (イエン・シアオピン)	時代の波に翻弄されながらも、文革から現在まで生き抜いたピアニストの肖像。師匠と弟子の魂の絆を描いた芸道物語でもある。ラフマニノフのピアノ協奏曲第二番の甘く切ないメロディが、物語と関わりながら全編を統括している。
5. 『金婚式』金婚 / 1998 / カラー / 104分 監督: 王坪 (ワン・ピン) 趙重光 (チャオ・チャンコワン) 出演: 王玉梅 (ワン・ユイメイ) 田成仁 (ティエン・チョンレン)	結婚して50年の記念すべき年を迎えた老夫婦。ところが、子供たちは皆忙しく、落ち着いて顔を合わせる余裕もない。そんな中、父が心臓発作で倒れて…。老人を主人公に据え、『榕樹の丘で』と並んで高く評価された珠玉の一編。
6. 『セピア色の愛』非常愛情 / 1997 / カラー / 96分 監督: 吳天明 (ウー・ティエンミン) 出演: 袁莉 (ユワン・リー) 柳雲龍 (リウ・ユンロン)	北京と南京の大学に離れながらも愛を貫いたカップル。ところが結婚生活わずかにして夫に災難がふりかかる。『古井戸』『變臉』の名匠・吳天明監督の新作。
7. 特別上映『榕樹の丘へ』安居 / 1997 / カラー / 100分 監督: 胡炳榴 (フー・ピンリウ) 出演: 潘予 (パン・ユイ) 白雪雲 (パイ・シュエユン) 孫敏 (スン・ミン)	一人息子との同居だけを願う老母に、老人ホーム行き話が持ち上がる。子を思う母の切ない思い、日々の仕事に追われる息子夫婦、そして故郷へ必死で送り出すお手伝いの少女。それぞれの心の居場所を描いて、金鶏賞最優秀作品賞ほか98年の国内映画賞を総なめにした。(12月26日より三百人劇場にて公開)
【中国映画傑作選】	
8. 『白毛女』白毛女 / 1950 / 白黒 / 111分 監督: 王濱 (ワン・ピン) 水華 (シュイ・ホワ) 出演: 田華 (ティエン・ホワ) 李百万 (リー・パイワン) 陳強 (チェン・チアン)	悪徳地主のため夢も未来も奪われ、深い嘆きの中で白髪となった娘が、恋人と力を合わせて再び幸福を得るまでを描く。オペラや舞台でも繰り返し上演される古典的名作の初映画化作品で、日本で戦後に初めて公開された中国映画でもある。随所に織り込まれた民謡調の歌が、ヒロインの心情を高らかに歌いあげる。
9. 『三人の李さん』大李、小李和老李 / 1962 / 白黒 / 86分 監督: 謝晋 (シエ・チン) 出演: 劉俠声 (リウ・シアション) 姚德冰 (ヤオ・トーピン) 范哈哈 (ファン・ハーハー)	勤務先の食肉加工場で体操主任を任命された大李は、さっそく体育読本を買い込んで練習を開始。工場はおろか自宅でも、周囲の人々に運動を奨励する。のんびり屋の主人公が次々と巻き起こす騒動の結末は…。家族や隣人たちなどの関係も丁寧に描写した小市民コメディ。
10. 『黄色い大地』黃土地 / 1984 / カラー / 94分 監督: 陳凱歌 (チェン・カイコー) 出演: 王学圻 (ワン・シュエチー) 薛白 (シュエ・パイ) 譚托 (タン・トウオ)	封建的な山村に生まれ育った少女は、民謡採集のため訪れた八路軍兵士との出会いで自由な思想に触れ、まだ見ぬ外の世界に憧れるが…。中国ニューウェーブの存在を海外に知らしめた記念碑的傑作で、ロカルノ映画祭ほか内外で高く評価された、陳凱歌初監督作品。
11. 『變 へんめん 臉 この懼に手をそえて』 變臉 / 1996 / カラー / 101分 監督: 吳天明 (ウー・ティエンミン) 出演: 朱旭 (チュウ・シュイ) 周任瑩 (チョウ・レンイン) 趙志剛 (チャオ・チーカン)	今世紀初頭、各地を放浪して『變臉』という技を見せる四川歌劇の名手である老人は、後継者として男児を買い、愛情深く育て上げた。しかし、その子が実は女だったことを知り…。大道芸人とその養子となった少女の過酷な人生。主演の朱旭は『大地の子』などで日本でもお馴染みの名優。

各作品の上映分数は、変更となる場合があります。

タイムテーブル

	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00
	30	30	30	30	30	30	30	30	30
12月2日(木)									『草の家』
3日(金)	『婦人会の男主任』			『白毛女』			『三人の李さん』		『榕樹の丘へ』 (特別上映)
4日(土)	『金婚式』			『草の家』			シンポジウム「中国映画50年」		『遙かな想い チャイニーズ・ドリーム in U.S.A.』
5日(日)	『婦人会の男主任』			『生命のピアノ』			『遙かな想い チャイニーズ・ドリーム in U.S.A.』		『セピア色の愛』
6日(月)	『セピア色の愛』			『變 へんめん 臉 この懼に手をそえて』			『三人の李さん』		『生命のピアノ』
7日(火)	『生命のピアノ』			『黄色い大地』			『白毛女』		『金婚式』
8日(水)	『金婚式』			『草の家』			『遙かな想い チャイニーズ・ドリーム in U.S.A.』		『婦人会の男主任』

*シンポジウムは入場無料。パネリストは未定 *来日ゲスト=王坪(『金婚式』監督)、曹文軒(『草の家』脚本)、徐帆(『遙かな想い』主演女優)

第3回 アジア・フィルム・フェスティバル

12月11日(土)~19日(日)/国際交流フォーラム(裏表紙参照)

「アジア・フィルム・フェスティバル」は、映画生誕100年、NHK放送開始70年、アジアセンター開設を記念して、NHKとアジアセンターとの共催で、1995年にスタートしました。

「アジア諸国の映画監督と手を結び、映画の共同制作を通じて相互の文化を理解しあい、併せてアジアの映像文化の振興に寄与したい」との基本理念のもとに、NHKとアジア諸国の新進気鋭の映画監督たちが共同制作した映画を上映し、同時に当基金が調達したアジアの優れた映画を紹介することを目的とし、隔年で開催しています。

第3回の今年は、韓国、ネパール、オーストラリア、イラン、中国(香港)の5カ国の作家たちとNHKの共同制作5作品と、タイ、ヴェトナムの話題作4作品、第1回(95年度)第2回(97年度)に制作された8作品を上映、また、参考上映としてNHKハイビジョンドラマ2作品を上映します(参考上映については、入場無料)



「ペパーミント・キャンディー」



「柳と風」

前売り 1回券 ¥800 / 当日1回券 / 3回券 ¥2,000(前売りのみ300枚限定)
 全回入替制 / 土・日のみ日時指定
 チケットぴあにて発売中(03-5237-9999)
 参考上映のNHKハイビジョンドラマ「日曜日は終わらない」および「水の中の八月」
 は入場無料。

主催 : NHK・国際交流基金・NHKエンタープライズ21・NHKプロモーション
 協力 : ぴあ株式会社・楽舎
 問い合わせ : NHKプロモーション(TEL. 03-5790-6424)

タイムテーブル

	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00
	30	30	30	30	30	15 30	30	30	30
12月11日(土)	ファン・バー・カラオケ		ペパーミント・キャンディー			退屈なオリーブたち			リトルチュン
12日(日)	サイゴンからの旅人		欲望の仮面			日曜日は終わらない			柳と風
13日(月)						ニヤム			ロイテ - 誓い -
14日(火)			マン・オブ・ザ・ストーリー			孔雀の家			運命からの逃走
15日(水)			天の馬			闘牛士			サイゴンからの旅人
16日(木)			台北ソリチュード			"I WISH....."			ファン・バー・カラオケ
17日(金)			満月の日の死			水の中の八月			リトル・チュン
18日(土)	運命からの逃走		退屈なオリーブたち			欲望の仮面			ペパーミント・キャンディー
19日(日)	ロイテ - 誓い -		日曜日は終わらない			柳と風			

入場無料

上映作品

1. '99NHK共同制作作品(新作)	
(1) ベーパーミント・キャンディー '99 / 韓国 / カラー / 135分 監督:イ・チャンドン 出演:ソル・ギョング、ムン・ソリ、キム・ヨジン	20年ぶりの仲間とのピクニックにキム・ヨンは放心状態で現われ、突然、鉄橋に登ってしまふ。迫り来る電車。彼の脳裏には数日、数カ月、数年間前の自分が現れては消える。事業の失敗などでぼろぼろの今の自分から、次々と過去の過ちが剥ぎ取られ、ついに20歳の時に同じ場所でピクニックした至福の瞬間に戻る。
(2) 欲望の仮面 '99 / ネパール / カラー / 105分 監督:ツェリン・リタール・シェルパ 出演:ガウリ・マラ、ミティラ・シャルマ、ラタン・スベティ	2人の娘とつましくも幸せに暮らす若夫婦は、待望の男の子に恵まれるが幼くして死んでしまふ。信心深い妻はますます信仰に固執し、夫婦は女祈祷師と親しくなるが、女祈祷師は夫に惹かれていく。その様子を見て精神のバランスを崩していき妻。宗教儀式に満ちたネパールの信仰のあり方を問う意欲作。
(3) 柳と風 '99 / イラン / カラー / 85分 監督:モハマド・アリ・タレビ 脚本:アッバス・キアロスタミ 出演:ハディ・アリブール	1年中雨が降るイラン北部の村。教室の窓ガラスを割ってしまった少年クーチェキは、雨を珍しが無邪気に戯れている転入生の父親から金を借り、ガラス板を何とか手に入れる。だが、彼はひどく遠く学校まで運んで、なおかつ高みにある窓にガラスを嵌めなくてはならない。はたして無事に…?
(4) 退屈なオリーブた女(仮題) '99 / オーストラリア / カラー / 80分 監督:ペリンダ・チャイコ 出演:サリヴァン・スティブルトン、ミーガン・ドーマン	ブリスベンの宅配ピザ屋で働く若者6人それぞれのある晩の数時間が語られていき、ジグソーパズルのように少しずつ前後関係が明らかになっていく。現実感が希薄な荒野の人工的な町で20歳そこそこの男女は、仲間とはしゃぎながらも、それぞれに傷つき、孤独で、つかえながら大人の階段をのぼっている。
(5) リトル・チュン '99 / 香港 / カラー / 115分 監督:フルーツ・チャン 出演:ユイユエ・ミン、マクウァイ・ファン	猥雑な町に住む9歳のチュン少年は、親孝行で近所でも人気者。そんなチュンは自分に黒社会に入った年の離れた兄がいることを知る。それだけに自分には厳格な父に反抗し、彼は家出をする。遠くへ行ってしまう仲良しの少女リンの乗った車を追いかけていると、夜空には香港返還を祝う花火があがるのだった。
2. 東南アジアのニューウェイブ(国際交流基金企画)	
(1) サイゴンからの旅人 '97 / ベトナム / カラー / 99分 フィルム提供:ベトナム映画上映実行委員会 / プロセス資材(株) 監督:レ・ホアン 出演:コン・ニン、モック・ミン	タンは戦友の遺骨をリュックに入れて、サイゴンからハノイへ列車で向かうが、途中下車をしたときに乗り遅れてしまふ。タンは、必死に追いかけるうちが、次々に起きる障壁のため、リュックの行方は思わぬ方向に流されていく。
(2) ロイテ〜誓い〜 '96 / ベトナム / カラー / 98分 フィルム提供:ベトナム映画上映実行委員会 / プロセス資材(株) 監督:グエン・トゥオン・フォン 出演:ミ・ズエン、レ・ヴァン、ドン・ズオン	愛する男のため、学生運動家の女が身ごもったまま一人で当局に捕らえられる。解放されると、男は富と地位に目が眩んでしまっていた。女が一人で育てた娘は新聞記者となりある取崩事件を追い、そこで娘が知るのとは…。
(3) 運命からの逃走 '97 / タイ / カラー / 105分 フィルム提供:アジア・フォーカス・福岡映画祭実行委員会 / 福岡市総合図書館 監督:オキサイド・バン 出演:サンヤー・クナゴーン、ナットリガー・ダンマブリダーナン	信仰の厚い恋人が危篤に陥り生まれて初めて本気で祈りを捧げる男の前に謎の僧侶が現われ、恋人を助けるために5人の命を救うように伝える。未来の死亡記事を手にした男は、5人の命を救うべく脇目も降らずに奔走する。
(4) ファン・パー・カラオケ '96 / タイ / カラー / 102分 フィルム提供:アジア・フォーカス・福岡映画祭実行委員会 / 福岡市総合図書館 監督:ベンエーク・ラタナルアン 出演:パイブーンキャット・キアオケーオ、フェイス・アッサウエート	亡くなった母親の夢ばかり見る少女プー。父親は、マフィアの愛人がホステスをしているカラオケバーに入り浸たり、マフィアから脅される。プーはマフィアの手下と知り合いになるが、手下はプーの父親を殺すよう命じられていた。
3. '95年度、'97年度NHK共同制作作品	
(1) マン・オブ・ザ・ストーリー '95 / インド / カラー / 107分 監督:アドゥール・ゴーパークリシュナン	旧家に生まれた青年が時代の流れに翻弄されながらも大人の男へと成長していく。
(2) 孔雀の家 '95 / タイ / カラー / 115分 監督:チャート・ソンサイ	1767年、ミャンマー軍に攻撃される首都アユタヤ。家族を守るため200年後にタイムスリップ。
(3) ニャム '95 / ベトナム / カラー / 116分 監督:ダン・ニャット・ミン	詩を愛する少年ニャムの住む村に美しい女性が里帰りしてくる。
(4) 天の馬 '95 / モンゴル / カラー / 85分 監督:ナンサリーン・オランチメグ	家畜の私有化が認められたモンゴル。赤毛の瘦せっぽちの馬が割り当てられたアランザルはがっかりするが…。
(5) "I WISH..." '97 / ウズベキスタン / カラー / 108分 監督:ズリフィカール・ムサーコフ	突然自分には奇跡を起こす能力があることを発見した会計士の男。最初はささやかな奇跡で満足していたが、飽き足らなくなり…。
(6) 満月の日の死 '97 / スリランカ / カラー / 75分 監督:プラサンナ・ヴィターナゲー	スリランカの古都アヌラダプラの村で暮らす盲目の老人ワンニハーミ。ある日彼のせとに息子の柩が届く。
(7) 台北ソリチュード '97 / 台湾 / カラー / 118分 監督:リン・チェンシン	夫と長いこと別居中の阿芬。彼女はかつていけない関係に自分が誘った弟のことを考えている。
(8) 闘牛士 '97 / マレーシア / カラー / 94分 監督:ウ・ウェイ・ビン・ハジサアリ	闘牛が違法になったため、マレー半島からタイに移住した闘牛トレーナー。親友の復讐のため20年ぶりに故郷に戻るが、故郷はすっかり変化していた。
4. 参考上映作品(NHKハイビジョンドラマ) 入場無料	
(1) 日曜日は終わらない '99 / 日本 / カラー / 90分 演出:高橋陽一郎 作:岩松了 出演:水橋研二、リリィ、塚本晋也	同じ会社に勤める父親から解雇を言い渡された一也は、父と離婚した母の家に身を寄せた。だが、そこには亭主面をした坂本という男がいて居場所がない。知り合ったホステスとのデート当日、一也は坂本を殺してしまい、服役する。一也は出所を待っていた父の生き方に導かれ、生きる意欲を取り戻していく。
(2) 水の中の八月 '97 / 日本 / カラー / 90分 演出:高橋陽一郎 出演:水橋研二、伊藤歩	水泳に明け暮れる高校3年生の健治は礼子から親友の新井へのキュービッド役を頼まれるが、健治は礼子が好きだった…。

1999年度第3期アジア理解講座(週1回全10回)

12月15日より受付開始

アジアセンターでは多様なアジアの文化・社会を紹介するための一般向け講座を1年に3回開講してしております。今回は第3期として2つの講座を下記のとおり開講いたします。

水「タイを知ろう」

1月12日～3月15日の毎週水曜日

講師:末廣昭(東京大学社会科学研究所教授)他

内容:日本からの観光客も多く人気の高いタイ。今期の講座「タイを知ろう」では、具体的で身近な問題から、タイ社会、タイ政治・経済にアプローチをおこない、タイ社会の理解が同時に日本社会の理解や見なおしのヒントになるような講座にしたいと思います。いわゆる「タイらしさ」(Thai-ness)「タイの」な事象を強調するのではなく、経済危機、工業化、国民統合といった環境のなかで、日本と同様の問題に直面し、しかし日本とは違った対応や行動を示しているタイの姿を紹介していきたいと思ひます。また、講義のなかでは、タイと日本との係わり、さらに各講師のタイとの係わりが、何らかの形で講義を通じて伝わるようにしていきたいと思ひます。なお、各講義のなかでは、日本語で読める関連文献をいくつか紹介していく予定です。

木「南アジアの20世紀:巨象動く」

1月20日～3月23日の毎週木曜日

講師:水島司(東京大学大学院人文社会系研究科教授)他

内容:白濁した空気の彼方に、うつすらとしか映らなかつたインド世界が、今、私たちの目の前に少しずつ姿を見せ始めています。インド世界という言葉から私達が心に描く様々な風景～無心に手紡ぎ車を回す半裸の男、底の見えぬ河の淵で一心に祈る人々、痩せこけた牛、瞑想する修行者～などは、神秘的、哲学的な、底知れぬ、不可思議な、などの言葉で形容され、私達の心の中に奇妙に根付いてきました。しかし、90年代に入つてのインド世界は、地球的規模での情報革命の中で、経済開放政策への転換を契機に新たな方向に歩みはじめ、変貌するその巨大な姿を現しつつあります。本講座では、南アジアにとって20世紀の持つ意味を、歴史や社会、経済の20世紀の歩みからスタートし、さらに、南アジアと外の世界との関係、国際関係の中での南アジアの位置、男女関係、信仰のあり方、生活慣習の変化、日本との関わりなどの諸側面をとりあげて考えてみたいと思ひます。

各講座 週1回全10回、19:00～20:30、受講料は1コース10,000円(銀行振込のみ受付) 定員50名

場 所: 国際交流基金アジアセンター レクチャー室

東京都港区赤坂2-17-22 赤坂ツインタワー本館1階(地下鉄銀座線・南北線「溜池山王」駅下車12番出口徒歩1分)

お申し込み:以下より申込用紙を入手し、必要事項を記入の上、郵送またはファックスにてお申し込み下さい。

アジアセンター国内事業課

〒107-0052 東京都港区赤坂2-17-22 赤坂ツインタワー本館1階

TEL 03-5562-3892(受付時間 月～金10:00～18:00) FAX 03-5562-3897

URL: <http://www.jpfa.go.jp>

内容、日程について一部変更することがあります。ご了承下さい。

芸術交流部

芸術交流部公演課 03-5562-3530

国内公演助成

ペルシャ伝統音楽日本公演

ペルシャ、こころの響

18:00開演(17:30開場)

11月29日(月)伊丹アイフォニックホール

11月30日(火)奈良市史跡文化センター

12月5日(日)江戸東京博物館ホール

ペルシャの伝統音楽は、古くから日本へと伝来していました。それは広大な大陸に延々と続く「シルクロード」の彼方、未だ見ぬ天空の国から降り注ぐ、溢れるばかりの光の輝きにも似た調べとして響いたことでしょう。このような私たち日本人の心のあこがれとしてあるペルシャ音楽も、今日その演奏に實際ふれる機会はごく限られた場のみでしかありません。この演奏会が、悠久の地ペルシャの文化と薫りを感じ取る機会のひとつとなつていただければ幸いです。

(ペルシャ伝統音楽実行委員会)

メンバー

- ● ●
- バーラム・サーランギ(ボーカル)
- メヘルダド・デルナヴァズィー(タール)
- スィヤー・マック・パナーイ(トシバク)
- ダーウッド・ヴァルズィー(ドネイ)
- ジャーベル・エターアテイ(ケマンチェ、ガルモン)
- ブーリー・アナビアン(サントゥール)

料 金 : 前売り2,500円 当日3,000円
 チケット : チケットぴあ 03-5237-9999、06-6363-9999
 お問い合わせ先 : ペルシャ伝統音楽日本公演実行委員会
 事務局(K.S.E. Japan 気付)
 06-6341-9616(月～金 9:00～18:00)



バーラム・サーランギ(ボーカル)



ブーリー・アナビアン(サントゥール)

日本・モンゴル文化フォーラム開催

1990年以降、アジアの旧社会主義国の中でいち早くイデオロギーから脱却し、民主化と市場経済化を推進してきたモンゴルでは、急速な社会の変化に伴い、貴重な文化遺産の保存と振興が重要な課題となっています。

アジアセンターは、1995年の設立以来、アジアの固有文化の保存振興分野で積極的に活動してきており、モンゴルに対しても、文化財保存分野での協力の一環として、博物館、図書館における人材養成やモンゴル研究の促進などの面で協力を行ってきました。

こうした従来の活動の成果を踏まえ、文化財の保護とその活用を

中心的なテーマとし、日本とモンゴルの両国における文化交流・文化協力を更に進展させることを目的として、日本・モンゴル文化フォーラムを開催します。このフォーラムは、今年7月、小淵総理がモンゴルを訪問された際、ナランツァツラルト首相に対して開催を提案されたものです。

フォーラムでは、日本とモンゴルの文化機関の関係者が一堂に会し、文化財の保護とその活用を中心として、21世紀に向けての日本とモンゴルの幅広い分野における文化交流・文化協力のあり方について議論します。



エルデネゾー寺院



写真後方の塙の向こう側にはカラコルムの遺跡が広がっている。

1. 主催団体 : 国際交流基金アジアセンター、国立民族学博物館
2. 実施時期 : 12月9日(木) 10:30~17:30
3. 会場 : 国際交流基金国際会議場(東京都港区赤坂1-12-32 アーク森ビル20階)
4. モンゴル側招へい予定者:

D. Delgertsogt内閣官房戦略統制局長	G. Mend-Oyo文部省付属エージェンシー文化局局长
R. Bat-Erdene文部省文部次官	S. Bira国際モンゴル学連合事務局長
B. Chadraaモンゴル科学アカデミー総裁	I. Lkhagvasurenモンゴル文化基金理事長

フォーラムは同時通訳で行われます。

参加を希望される方は、予め、アジアセンター知的交流課(Tel : 03-5562-3891 / Fax : 03-5562-3898)までご連絡下さい。

日米センター

日米センター事業第一課 03-5562-3542

公開シンポジウム

「東アジア・東南アジアにおける法律扶助と公益的弁護士活動」

共催 : 神戸大学法学部法社会学講座、国際交流基金日米センター
米国・ウイスコンシン大学アジア・パートナーシップ・イニシアティブ
日本弁護士連合会、法律扶助協会

近年、東アジア・東南アジアにおける「法の支配」の伸張にとともに、それに実効性を与えるものとして、特に貧困者や社会的弱者への法律扶助と公益的弁護士活動の重要性が改めて認識されています。そこで、昨年7月21日~23日にタイ国バンコックのタマサート大学において、東アジア・東南アジア諸国における状況を検討して情報交換を行うとともに、より発達した法律扶助と公益弁護士活動の態勢を備えながらも独自の問題をかかえるアメリカの状況との比較検討を行うための、国際シンポジウムが行われました。今回の連続シンポは、その成果を受けて、さらに国際的比較研究と協力のネットワークを強化するとともに、現在日本で進行中である法律扶助改革・司法制度改革に資することを目的としています。日米に加え、中国、韓国、タイ、フィリ

ピン、ベトナム、ラオス、カンボジアからパネリストをお招きし、実務家、政府関係者、研究者、一般市民等に広く参加を求め、議論を行います。(日本側オーガナイザー 神戸大学法学部教授 宮澤節生)

日程 : 12月17日(金)・18日(土) 9:30~17:30(両日とも)

会場 : 国際交流基金国際会議場

(東京都港区赤坂1-12-32アーク森ビル20階)

言語 : 日本語・英語(同時通訳つき)

参加費 : 事前登録者(12月3日まで)無料

12月3日以降・当日 3,000円

連絡先 : 日米センター事業第一課

国際交流セミナー

「京の金属工芸」

12月10日(金)午後2時～4時

国際交流基金京都支部 講堂

京都府京都市中京区烏丸通錦小路上ル

安田火災海上京都ビル8階

用語：日本語(英語逐次通訳)

京都の金属工芸の特色は、なんといってもその多様性にあります。今日でもいろいろな素材や技法を駆使して様々な製品が作られています。他産地が単一の技術で、或はそれに付随した技術で似寄りの製品を作っているのと比較すると、画然とした違いがあります。それは、かつて都が膨大な消費地であり、なかんずく宮中や武家、本山や家元等々の特権階級の生活を支えるため、選りすぐりの職人が活躍した大産地でもあったことの名残りなのかも知れません。

それ故、金属工芸の世界にあって、今日でも宮中につながる神祇調度などの仕事、各宗派に専門の仏具職人、家元につながる職方等は盛業です。他方では古くさいとも思える煙管職人とか、鍛冶屋さん、例えば私のようなマイナーな素材を扱う錫匠でも何とか京都の地で生計を営んでいます。これは京都なればこそ、というべきなのかも知れません。しかし、この20年程は金属工芸にとっても大変厳しい時代で、私の知己の熟達の職人も世を去っていき、後継者難もあって、衰亡の淵に直面しています。ただ考えてみれば、仮に後継者があってもそれを支える需要があるかどうか疑わしいし、現在日本の経済社会がさらされている激動の中で、手仕事を中心とする伝統産業といえども、社会的変動の埒外である筈がありません。

日本劇映画上映会 「リクエスト映画特集」

関西在住の外国人を対象に、下記の劇映画(英語字幕付)を上映します。

京都支部講堂

午後2時から上映(入場無料)

12月1日 檀山節考

今村 昌平 監督 1983年作

12月8日 ビリィ・ザ・キッドの
新しい夜明け

山川 直人 監督 1986年作

12月15日 お茶漬けの味

小津 安二郎 監督 1952年作

12月22日 蜘蛛巣城

黒澤 明 監督 1957年作

「もの」を中心に考えた時、「手づくり」という言葉は単に手で作られたということのみを「売り物」にした、大変いやらしい言葉に思えて仕方ありません。しかし作り手を中心に考えた時、「手仕事」という言葉は無数の可能性を持った言葉ではないかと思われまふ。「もの」を手で創り出していく楽しさ、出来上がった「もの」の美しさが社会にアピール出来れば、新しいものが生まれ、新しい職人が育ってくると思ひます。それが伝統の力というべきものだと思ひています。



京都支部 075-211-1312

今月の最新号

国際交流に関する論文や研究報告、情報提供を目的とした様々な定期刊行物を発行しております。その中から、近刊をご紹介します。

The Japan Foundation Newsletter Vol. XXVII/No. 1



国際文化交流や日本研究に関心のある方や機関に無料で配布しております。定期的な送付をご希望の方は当課までご連絡下さい。

(本誌はホームページよりダウンロードしてご覧頂くこともできます)



メディア事業部編集課

03-5562-3532

「The Japan Foundation Newsletter」は国内外の日本研究者や日本に関心をお持ちの方々に対し、当基金の活動状況の報告とあわせ、日本研究や日本に関する情報の提供を行っている、英文の季刊誌です。今号より新しいデザインでより読みやすく、より魅力的な誌面となって再出発をいたします。本号の特集は「妖怪」です。

MAIN ARTICLE

妖怪と日本の暮らし～もの人間との関係～
小松和彦(国際日本文化研究センター教授)

CULTURAL HIGHLIGHT

日本文化に関する新聞記事の抜粋

RESEARCH REPORTS

- ・日中知識人に見る世界像の形成
- ・Conference Diplomacy and Development Cooperation: Japan and the TICAD Process
- ・The Post-Quake Reconstruction of Kobe: Economic, Land Use, and Housing Perspectives

BOOK REVIEWS

“Traditional Japanese Theater: An Anthology of Plays”
(Columbia University Press, 1998)
Stephen Comee(梅若研能会能楽師)

FOUNDATION ACTIVITIES

6カ国コラボレーション「リア」日本からアジアへ
島由紀(国際交流基金アジアセンター舞台芸術専門員)

国際会議

企画部企画課 03-5562-3537

日欧国際会議助成

特定の課題に関する日欧間の知的対話の促進を支援します。

会議名	主催者	開催地	期 間	内 容
北東アジアにおけるエネルギー安全保障と開発についての協力	(財)環日本海経済研究所	日本(新潟)	'99.12.17 - '99.12.19	北東アジア地域の経済発展は、エネルギー資源を利用可能にすることおよびその有効利用と日本、ロシア、中国、韓国、米国の緊密な協力が欠かせない。エネルギー安全保障と開発問題にかかる地域協力に関し、今後共同研究を行っていくための対話。日本 - ロシアのエネルギーセクターの協力および北東アジアの安定と経済協力で与えるインパクトを展望する。

人物の交流 派遣

人物交流部派遣課 03-5562-3521

氏 名	所属機関等	派遣地	目 的	期 間
日本文化紹介派遣(助成)事業				
日本文化紹介事業を行う学者・芸術家等に対して助成を行います。				
藤間 蘭景 他1名	(社)日本舞踊協会理事	米国(ロス・アンゼルス)メキシコ	「重要無形文化財歌舞伎舞踊保持者」並びに日本芸術院会員であった故藤間藤子の追悼舞踊会として、日本舞踊の指導、解説、実演紹介を行う。	'99.12. 1 - '99.12.10

人物の交流 招へい

人物交流部受入課 03-5562-3522

フェローシップ招へい事業

学者・研究者・芸術家を招へいし、日本での研究・調査・創作活動の機会を提供します。

国名	氏名	現 職(専門)	研究主題(受入機関)	滞日期間
学者・研究者フェローシップ				
韓国	Ms.NAM Jeong-Ho	韓国芸術総合学校舞踏院学科長	2002国際舞踏project準備 (ダンスマガジン)	'99.12.20 - '00. 2.19
米国	Mr.NIENHAUSER William H.	ウイスコンシン大学マジンソン校教授	瀧川亀太郎と史記会注考証の研究 (京都大学文学部)	'99.12. 1 - '00. 1.31
米国	Ms.HAYASHI Reiko	サンフランシスコ州大学助教授	日本の障害者の自立運動と地域に根ざした長期的介護の発展 (信州大学)	'99.12.29 - '00. 6.28
博士論文執筆者フェローシップ				
米国	Mr.CLAYTON John	インディアナ大学博士課程	太平洋戦争下(1937-1945)の日本の公教育 (奈良教育大学)	'99.12.16 - '01. 2.15
特別フェローシップ				
ブルガリア	Mr.BACHEV Hrabrin	農業経済研究所教授	農業分野における経済自由化、市場調査、施設の近代化 - ブルガリア改革への日本経済の役割 (九州大学)	'99.12. 1 - '00.11.30

人物の交流 招へい

人物交流部受入課 03-5562-3522

文化人短期招へい招へい事業

文化人を招へいし、日本の実状視察や日本側文化人・関係者との意見交換の機会を提供します。

国名	氏名	現職(専門)	研究主題(受入機関)	滞日期間
インドネシア	Mr.PAENI, Mukhlis	国立公文書館館長	近代文書保存、修復についての視察および協議	'99.12. 7 '99.12.19

グループ招へい事業

日本文化に対する理解促進や相互交流のため、各分野のグループを招へいします。

グループ名	構成	訪日目的等
韓国中高教員グループ	韓国中等教育関係者(教師、教育省行政官)その他(当課自主企画)	日本の中等教育の視察 '99.12. 1 '99.12.15
サハリン地域等知的指導者グループ	サハリン地域等の学術・文化的な機関の代表者等	日本の学術・文化事情および一般社会の現状視察、関係者との意見交換等 '99.11.15 '99.11.22

日本語・日本研究

日本語部日本研究課 03-5562-3526

日本研究リサーチ・会議等助成

日本に関する共同研究や学術的会議等の実施経費を助成します。

国名	助成対象機関	助成対象事業内容・主題	期間
英国	ロンドン大学東洋アフリカ学院	死、冥界、来世:現代日本の宗教(会議)	'99.12. 7 '99.12. 9
ベトナム	ハノイ大学ベトナム文化交流研究所	16~17世紀における日本・ベトナム陶磁器貿易交流(リサーチおよび会議)	'99.12.15 '99.12.20
オーストラリア	セントラル・クィーンズランド大学	第11回豪日研究学会(JSAA)総会	'99.12. 1 '99.12. 4

日本語国際センター制作事業課 048-834-1183

日本語教材制作助成プログラム

日本語教材の出版経費の一部を援助します。

国名	出版社	教材名	使用言語	著者	備考
日本	(社)国際日本語普及協会	AJALT 22号	日本語	(社)国際日本語普及協会	特集「年少者への日本語教育」
中国	人民教育出版社	全日制普通高級中学教科書 日語 第3冊	中国語	課程教材研究所外語室日語組	日本語教育フェローシップでも援助

芸術交流 展示

芸術交流部展示課 03-5562-3529

海外展主催(企画)

国内外の美術館・博物館等との共催により日本の美術・文化を海外に紹介します。

展覧会名	共催者	開催地	会場	開催期間	内容
現代日本の伝統工芸展	マニラ・メトロポリタン美術館・文化庁	フィリピン マニラ	マニラ・メトロポリタン美術館	'99.12.11 '00. 2.19	日本の伝統的な陶磁器、染織品、竹工芸、漆工芸を展示。

海外展助成

海外で開かれる日本美術・文化を紹介する展覧会に対し、経費の一部を助成します。

展覧会名	主催者	開催地	会場	開催期間	内容
草間彌生展	サーペンタインギャラリー	英国 ロンドン	サーペンタインギャラリー	'99.12. 7 '00. 1.31	英国における初の大規模な草間彌生回顧展。
森村泰昌展	チュロンコン大学アートセンター	タイ バンコック	チュロンコン大学アートセンター	'99.12. 2 '00. 1.22	タイ国王の72歳を祝う行事の一つとして行う森村泰昌展で「美術史の娘」シリーズを中心にとりあげる。

海外巡回展(主催)

当基金が所蔵する芸術・文化に関する展示セットを海外諸国に巡回します。

展覧会名	開催国/都市名/会場	開催期間(予定)
日本現代建築1985-1996展(A)	スペイン/バレンシア/バレンシア工科大学	'99.12.14 '00. 1.13
日本現代建築1985-1996展(B)	マケドニア/スコピエ/スコピエ市立美術館	'99.12. 9 '99.12.23
こけし展(A)	イスラエル/ラマト・ガン/ラマト・ガン市立極東美術館	'99.12. 1 '99.12.31
現代陶磁器展	ペルー/リマ/日秘文化会館	'99.12. 2 '99.12.22
90年代の絵画展	米国/モンタナ州ヘレナ/熊本プラザ	'99.12.10 '99.12.27

芸術交流 公演

芸術交流部公演課 03-5562-3530

海外公演助成

海外において舞台公演を行う日本の団体に対し、経費の一部を助成します。

国名	事業名 / 開催都市	団員数 公演数	実施a予定 期間	団体名 / 電話	事業内容
オーストラリア	劇団解体社'99メルボルン公演	23	'99.12. 5	劇団 解体社 03-5802-5387	現代演劇 身体表現を軸にしたスタイルに独自性を持つ劇団。School Studies in Creative Artsでの公演および現地劇団とのコラボレーションを行う。
	メルボルン	3	'99.12.16		

映像交流

メディア事業部視聴覚課 03-5562-3535

海外での上映会

海外における日本映画の非営利上映を実施・協力します。

上映会	期間・開催地	主催	内容
主催上映会			
マンガ展関連上映会 パリ日本文化会館にて開催される「マンガ展」と併せて、岡本忠成、たむらしげる監督作品等、日本のアニメーション映画を上映します。	'99.10.13 - '99.12.18 フランス パリ	国際交流基金パリ日本文化会館	『おこんじょうり』、『クジラの跳躍』、『白蛇伝』、『太陽の王子 ホルスの大冒険』、『はだしのゲン』等、29作品
日本アニメーション映画祭 日本の新旧のアニメーションをチュロンコン大学講堂等で上映します。	'99.11.21 - '99.12. 7 タイ バンコック	国際交流基金バンコック事務所	『AKIRA』、『MEMORIES』、『白蛇伝』等、12作品
中国における日本映画回顧展 日本映画の新しい波...90年代若手監督秀作回顧展 ~ 中華人民共和国成立50周年ならびに日中文化協定締結20周年を記念する「1999日中文化友好年」の関連事業として、90年代の独立プロ系の若手監督の作品で、国内外で評価の高い作品12本を上映します。同時に日本の映画関係者を中国に派遣し、シンポジウムを開催する予定です。	'99.11.21 - '99.12.12 中国 北京	国際交流基金北京事務所、東京国立近代美術館フィルムセンター、中国電影資料館	『桜の園』(中原俊監督)、『Kids Return』(北野武監督)、『萌の朱雀』(河瀬直美監督)、『がんばっていきまっしょい』(磯村一路監督)等
海外国際映画祭等			
ジャパン・ソサエティ・フィルム・シリーズ The Films of the 1960s 「森山大道」写真展との関連で10月に開始したこのイベントも今月が最後です。1950～70年代に制作されたヌーベルバーグ派の作品、ドキュメンタリー、社会問題やポップカルチャーをテーマにした作品などを通じて、60年代を包括的に再考します。今月の上映作品のひとつ『処刑の島』(篠田正浩監督)のスチール写真は森山大道が担当しています。	'99.10. 8 - '99.12.14 米国 ニュー・ヨーク	ジャパンソサエティ	『処刑の島』、『へそと原爆』(細江英公監督)等
監督特集			
今村昌平監督特集 先月より引き続き、テキサス州オースティンで実施されています。	'99.10.26 - '99.12.14 米国 オースティン(テキサス州)	オースティン・フィルム・ソサエティ、国際交流基金	『ええじゃないか』、『楢山節考』等、8作品
大林宣彦監督特集上映会 大林監督作品を11本上映します。	'99.10. 8 - '99.12.17 イタリア ローマ	国際交流基金ローマ日本文化会館	『いつか見たドラキュラ』、『ハウス』、『野ゆき山ゆき海べゆき』等
溝口健二監督特集 今月から欧州内の15都市以上を約1年かけて巡回します。	'99.12. 9 - '99.12.30 オランダ アムステルダム	ポローニヤ市立シネマテーク、各地上映団体(オランダフィルム博物館) 国際交流基金	『藤原義江のふるさと』、『祇園の姉妹』、『元禄忠臣蔵』前・後編等多数

「赤鬼」

(世田谷パブリックシアター・シアターラム)

9/18~26



●左：赤鬼 野田秀樹氏 右 あの子(ドゥアンジャイ・ヒランスリ氏)



撮影：石川 純氏

野田秀樹氏とタイの俳優13名を中心とした、日・タイ現代演劇共同制作プロジェクト「赤鬼」の再演が行われました。『幻の舞台』と噂された作品だけあって前評判も高く、また今回は赤鬼役を野田秀樹氏自身が演じることもあり、チケットは即完売。主催者としては嬉しい悲鳴を上げることとなりました。

無駄なもの的一切削ぎ落とした白い舞台上での、タイの俳優たちのみずみずしい演技、躍動感あふれる動き。そして野田赤鬼の孤独と切なさ。「期待にたがわぬ傑作」「この秋の大きな収穫」と各方面から絶賛を受けました。カーテンコールでのタイの俳優たちの笑顔は、すべての観客を魅了したに違いありません。

「羽衣」

(ハバロフスク市立“トリアーダ”パントマイム劇場)

9/24~26

本公演は、トリアーダ劇場、劇団青芸、当基金の共催事業として、約1年間の準備期間の後、無事初日を迎えることが出来ました。

トリアーダは、総員20名弱の小さくてアット・ホームなカンパニーで、日本側スタッフとのコミュニケーションも非常にうまくいきました。ハバロフスク市は、新潟・青森から飛行機で約2時間という地理的に近いところにあり、今後日本との交流が加速度的に高まると思われます。10月以降も続けられているこの事業がハバロフスクの皆様にも永く愛されることと、両国両地域間の交流の潤滑油としての役割を果たすことを願います。



「三輪 MIWA」

(国際交流フォーラム)

9/26~30



2年近くわたる準備期間を経て、本公演はようやく実現しました。この作品は、日本とインドに共通して存在する蛇神にまつわる神話を基に展開していく物語で、役者、音楽家、スタッフ共に日印混交、セリフは全て日本語で上演されました。インド人が語る日本語のセリフをはじめ、インドの役者が踊る日本舞踊、インド音楽にあわせた能の舞など、随所で日印融合が感じられる場面が見られました。

今回来日したインド人関係者は、インドの演劇界において今後も活躍していくことと思います。この共同制作が日印演劇交流のさらなる活性化を促す起爆剤となることを、切に願っております。



片桐 はいり インタビュー

9/27

(FM COCOLO 関西76.5)

6~7月にかけて行われた「リア」ヨーロッパ公演に参加された、片桐はいりさんにラジオ番組のインタビューにご出演いただきました。言葉が通じない中での稽古では、それぞれが自分達の業を出し合っ、ひとつひとつ場面を作り上げていくという苦労があったこと、障害となる国・言葉・芸の違いを逆に面白い人達の集まりであったのが成功につながったこと、などについて話されました。最後に、国が違ってても体があればどこでもやっていける、という強気な気持ちを持てたことは、今後の芸能活動に大いに役立つだろうとおっしゃっていました。

(毎月第4土曜日 21:30 ~ 「The Japan Foundation News」放送中)

カンパニー・エア・ソーラ 「ヴォワラ、ヴォワラ」

10/1 ~ 3

(渋谷Bunkamuraシアターコクーン)

ベトナムの振付家エア・ソーラが主宰する『カンパニー・エア・ソーラ』の初の日本公演が行われました。優れた歌手でもあるダンサーたちと、ベトナム伝統楽器の演奏が織りなす舞台空間は、西洋式のダンスとは全く異なる、“アジアの現在を描くオペラ”とも呼ぶべきオリジナルな表現でした。また、舞踊家・振付家を対象としたレクチャーと、多数のお客様のご参加を得た公演終演後のトークを通じ、芸術家エア・ソーラ自身の人間性に触れ、感銘を受けた方も多かったようです。エア・ソーラの、確固とした信念に裏打ちされた“彼女にしかできない表現”は、日本の観客の心に確実に届いたことでしょう。



撮影:安田 敬氏



国際交流基金賞・国際交流奨励賞授賞式

10/7

(港区赤坂)



受賞者の皆さん



フォーリー駐日米国大使と共に



都内ホテルにおいて、今年度の国際交流基金賞・国際交流奨励賞の授賞式を実施しました。当日は、フォーリー米国大使や堺屋経済企画庁長官など受賞者に縁の方々を中心に350名を越す出席者をお迎えし、盛況のうちに式典とレセプションが行われました。

授賞式では、藤井理事長の挨拶、選考委員会座長の高階秀爾 国立西洋美術館館長による受賞者と授賞理由の紹介に続き、賞状と副賞の目録が授与されました。受賞者のスピーチでは、これまでの日本との関わりや国際交流に対する考えなどが述べられました。(スピーチの全文は、ホームページでご覧いただくことができます。)

その後は会場を移し、和やかな雰囲気の中で授賞記念のレセプションが行われました。友人・関係者らが受賞者を囲み、国際交流についての話題に花が咲きました。

国際交流フォーラム今月の催し物

当基金が運営する「国際交流フォーラム」は、主催事業のみならず、他の文化交流団体の公演、展示、上映会、シンポジウムなどにもご活用いただいております。ご利用方法の詳細については(財)国際文化交流推進協会(エースジャパン)内国際交流フォーラム係(03-5562-0699)までお問い合わせ下さい。

身体詩・TAICHI-KIKAKU 12月公演

「光る旅 - The Radiant Trip」

12月24日(金)・25日(土)(12月23日(木)に上映会あり)

舞台、映像、詩、写真、ワークショップ...さまざまな表現手段をもって世界中を駆け巡っているパフォーマンス・グループ身体詩・TAICHI-KIKAKU。

イタリア、フランス、ポーランド、ベトナム、他、15カ国34都市を旅する中から数々の作品が生まれ、そして今回「旅」そのものを

モチーフとした「光る旅 - The Radiant Trip」が完成しました。

また、12月23日にはTAICHI-KIKAKUからのクリスマスプレゼントとして映像作品「僕はいまアフリカにいる」をあわせて上映します(「光る旅 - The Radiant Trip」チケットご購入の方をご招待)。

X'mas present 映像作品「僕はいまアフリカにいる」

12月23日(木)19:00上映

*舞台作品チケットご購入の方をもちろんご招待。(当日、舞台作品チケットを受付にご提示下さい)

舞台作品「光る旅 - The Radiant Trip」

12月24日(金)19:00開演

25日(土)13:00 / 17:30開演

チケット : 前売3500円 / 当日4000円 全席自由

チケット取扱 : チケットぴあ Tel. 03-5237-9988・9999

TAICHI-KIKAKU Tel. 03-5385-9137

お問い合わせ・予約 : TAICHI-KIKAKU Tel. 03-5385-9137

URL:<http://www.2u.biglobe.ne.jp/TAICHI-K/homepage.htm>

主催 : TAICHI-KIKAKU

〒107-0052

東京都港区赤坂 2-17-22

赤坂ツインタワー 1階

最寄り駅 営団地下鉄銀座線 / 南北線

「溜池山王駅」12番出口すぐ

都営バス都01系統(渋谷 新橋駅)「溜池」下車

都営バス西80系統(四谷 赤坂アークヒルズ)

「赤坂アークヒルズ前」下車



「寄付金制度」について 経理部資金課 03-5562-3519

国際交流基金では、国際文化交流事業の一層の発展・普及のため、皆様よりのご支援をお願いしております。

中でも、年会費として一定額以上のご寄付をお願いする会員になっていただきますと、定期刊行物の送付や図書館のご利用、催しへのご案内など様々な特典がございます。会員制度には「賛助会(個人一口2万円、団体一口10万円)

「友の会(個人のみ、一般4千円、学生2千円)の2種類がございます。

なお、当基金は特定公益増進法人に指定されており、ご寄付は税制上の優遇措置の対象となります。

新しく賛助会にご入会いただいた方

・飯塚 尚弘 様

発行 : 国際交流基金総務部総務課 〒107-6021 東京都港区赤坂1-12-32アーク森ビル21F 03-5562-3511

編集協力 : (財)国際文化交流推進協会(ACE JAPAN) 〒107-0052 東京都港区赤坂1-11-28 赤坂1丁目森ビル4F